

団地のソーシャルキャピタルが高齢者の移動に及ぼす影響に関する研究

長谷川 太一¹・中村 文彦²・田中 伸治³・三浦 詩乃⁴・有吉 亮⁵

¹学生会員 横浜国立大学 大学院都市イノベーション学府

(〒240-8501横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5)

E-mail:hasegawa-taichi-tb@ynu.jp

²正会員 横浜国立大学理事・副学長

(〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1)

E-mail: f-naka@ynu.ac.jp

³正会員 横浜国立大学准教授 大学院都市イノベーション研究院

(〒240-8501横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5)

E-mail: stanaka@ynu.ac.jp

⁴正会員 横浜国立大学助教 大学院都市イノベーション研究院

(〒240-8501横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5)

E-mail: miurashino@ynu.ac.jp

⁵正会員 横浜国立大学産学連携研究員 大学院都市イノベーション研究院

(〒240-8501横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5)

E-mail: ariyoshi-ryo-np@ynu.jp

現在、高度経済成長期に建設された団地では、団地の人口減少・高齢化等に伴うコミュニティの希薄化・高齢者の閉じこもり等の課題が生じている。そこで、高齢者の移動とソーシャルキャピタルに着目し、高齢者の移動との関連性を明らかにすることが、上記の課題解決の知見になると考えた。本研究では、団地のソーシャルキャピタル指標を提案し、アンケート調査結果等から、団地高齢者の移動の分析を行い、団地高齢者の移動の影響要因としてのソーシャルキャピタルの寄与を評価する。

Key Words : social capital, elderly, transport, complex, community

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

現在、高度経済成長期に建設された団地では、同世代が同時期に一斉入居したために、団地居住者の高齢化や人口減少が課題となっている。

それに伴い、バス等の公共交通の衰退、施設・設備の老朽化、団地内の商業施設の衰退、建物の建て替え等の取組がなかなか進まない、高齢者の閉じこもりによる健康問題、コミュニティの希薄化などが生じている。

本研究では、特にコミュニティの希薄化と高齢者の閉じこもりによる健康問題に着目した。既存の研究等から移動頻度の低下は健康問題のリスクが増加することが明らかになっている。また、団地の自治会活動の低下や商業施設の衰退によって団地住民同士のつながりが薄れてきている。これらの問題を解決するためにソーシャルキャピタルが重要な要因の1つではないかと考えた。

パットナム¹⁾は、ソーシャルキャピタルを、「人々の

協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会組織の特徴」と述べている。本研究では、住民同士の交流やネットワークが重要と考え、他文献等²⁾を参考に「交流(ネットワーク)」「社会参加」「信頼」と定義した。

本研究では、ソーシャルキャピタル(住民同士のネットワーク・信頼)が高齢者の移動になんらかの影響を与えているのではないかと仮説を立てた。

そのうえで、団地のソーシャルキャピタルが団地高齢者の移動に与える影響を明らかにし、団地高齢者の移動の増加に効果的な施策の方向性を示すことを目的とする。

2. 既存研究の整理と本研究の位置づけ

既存研究を、以下の3つに分類した。高齢者の健康とソーシャルキャピタルに関する研究、団地高齢者と移動に関する研究、ソーシャルキャピタルと住民活動に関

する研究の

(1) 高齢者の健康とソーシャルキャピタルに関して

近藤³⁾は、リスク要因や保護的要因、応用研究としての介入研究などに基づく指標群の妥当性の検証などを行っている。個人レベルで横断分析を行うと、社会参加の割合が高い人ほど、転倒や認知症やうつリスクが低い傾向がみられることが明らかにされている。しかし、地域レベルでは当てはまらない場合がある。

藤田⁴⁾は、65歳以上全高齢者1673人を対象に面接調査を行い、身体・心理・社会的特徴を調べており、外出頻度が低いほど健康水準が低いことが明らかにされている。

(2) 団地高齢者の移動に関して

吉村⁵⁾は、高齢化が著しい3つの郊外住宅団地でアンケート調査を行い分析を行っており、郊外住宅団地の高齢者は、交流が主体となる外出が低くなっていることを明らかにしている。

吉澤⁶⁾は、ヒアリングおよびアンケート調査をもとに、地区の歴史・居住の特性とコミュニティの成熟度との関連性を踏まえたうえで、高齢者の外出を確保する手段として有効な自動車同乗交通について分析しており、団地型社会で隣近所との付き合いが少ない傾向があり、またコミュニティのつながりの強いところでは世帯間同乗が行われていることを明らかにしている。

(3) ソーシャルキャピタルと住民活動に関して

松村⁷⁾は、地域住民に対するモビリティ・マネジメントが住民のまちづくりへの協力行動とコミュニティバス利用へ及ぼす影響を検証しており、地域密着型モビリティ・マネジメントはコミュニティバス利用に影響を与えていることを明らかにしている。

谷内⁸⁾は、住民主体型バスの賛否に関して、アンケート調査を行い分析を行っており、社会参加が活発な地域であったとしても住民主体型バスが成立可能になるとは限らないことを明らかにしている。

一方で、ソーシャルキャピタルと団地高齢者の移動に着目した研究事例は見られない。

3. 研究手法

まず、仮説の検証・指標の設定のため公田団地NPO「お互いさまネット」と永山団地NPO「福祉亭」でインタビュー調査を行った。次に、既存のソーシャルキャピタル指標⁹⁾を基に指標を作成した。ソーシャルキャピタル指標は今後インタビュー調査等を重ね改良を行う。続

いて、調査対象の団地の選定を行う。現在まで調査対象団地の選定案まで行っており、今後は、アンケート調査等から分析を行い、団地高齢者の移動に影響を与えるソーシャルキャピタルを抽出する。最終的には効果的な施策の提案を行う。

(1) 課題の把握・仮説の構築

神奈川県横浜市公田団地NPO「お互いさまネット」と東京都多摩市永山団地NPO「福祉亭」でインタビュー調査により、評価の視点と団地高齢者の移動に関する課題の把握を行い表-1のようにまとめた。

表-1 インタビュー調査の質問項目と成果

質問項目	拠点設立の経緯
	活動内容・活動を行う上での課題
	構成員の属性
	住民の活動への参加の度合い
	URや自治体との協力等
成果	知り合いが増え、交流が生まれることで行動範囲が広がる
	拠点に訪れる人同士での情報交換などが生活に有効となっている
	知り合った人同士で、自発的に見守りや声掛け等が発生している
	地域のつながりが活動の土台となる
	団地周辺地域の人が拠点活動に参加する等、拠点が地域づくりの一環となっている

インタビュー調査から、人が常に集まる拠点がソーシャルキャピタルに影響を与えていると考え、次の図1のように4つに分類した。

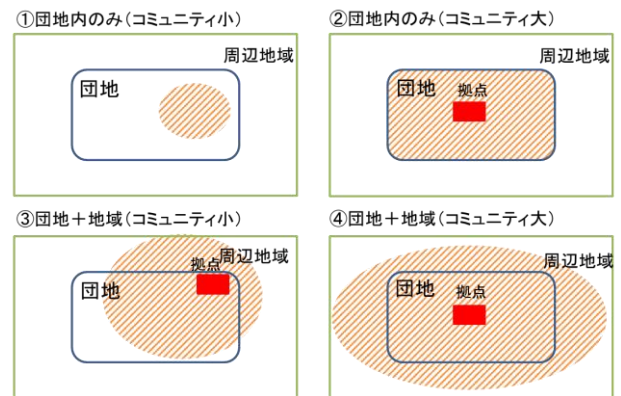


図-1 ソーシャルキャピタルの形態の仮説

注：(ハatched circle) は団地居住者の形成空間範囲を示す

ソーシャルキャピタルには、様々な形態があると考えられる。図-1①のように拠点が無い場合では、ソーシャルキャピタルが低い。また、同②～④のように拠点の立地や活動の内容運営者の属性などによってソーシャルキャピタルに変化があると考えられる。地域のつながりが強い団地では、さらにソーシャルキャピタルが高くなると考え

る。

また、吉村ら⁹⁾の研究とインタビュー調査の知見から団地内のつながりの強い団地では、通院等の移動の補助を誘発しやすくなり、地域のつながりが強い団地では、散歩等の移動を誘発しやすくなると考える。

(2) 団地のソーシャルキャピタルの提案

団地のソーシャルキャピタルの評価のため、インタビュー調査や既存のソーシャルキャピタル指標⁹⁾、中村らの研究^{10) 11)}を基に、表2のような団地のソーシャルキャピタル指標を提案した。この指標は、団地住民や周辺住民等のつながりに着目し、項目を立てた。この指標は、今後のインタビュー調査等により、項目の選定や項目の追加等の改良を加える。

表-2 本研究のソーシャルキャピタル指標

要素	項目
付き合い・交流 (ネットワーク)	・団地住民・周辺住民・自治会・自治体・管理主体者との付き合いの程度 ・団地住民・周辺住民・自治会・自治体・管理主体者と交流している人の数・頻度
信頼	・団地住民、周辺住民・自治会・自治体、管理主体者への信頼
社会参加活動について	・自治会・NPOの加入状況 ・自治会・団地活動の参加状況・参加率

(3) 調査対象団地の選定

横浜市内のUR・県営・市営団地469の中から、①建設当初から居住者が高齢になっていると考えられる築年数30年以上の団地とする。②入居条件を同一にするためUR賃貸団地とする。(図-2) ③移動に対する心理的負担が大きいと考え、最寄り駅までの所要時間が長い団地とする。④後の統計分析においてサンプルサイズを確保するために1000戸以上の団地とする。(図-3) 以上の条件から7団地を選定し(表-3)、トリップ原単位が高い団地と低い団地の比較を行う。

トリップ原単位が低い団地：西菅田団地(図-4)

トリップ原単位が高い団地：公田団地(図-5)

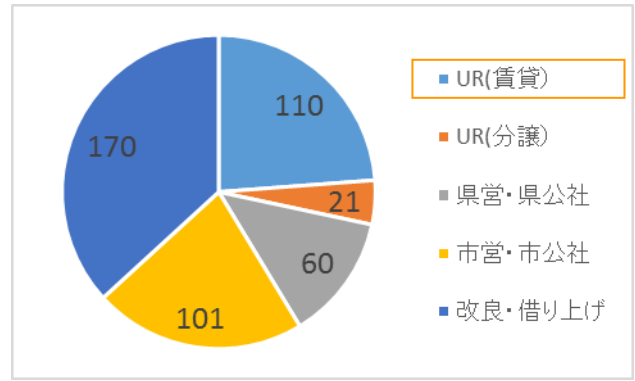


図-2 横浜市団地の管理主体者別分布

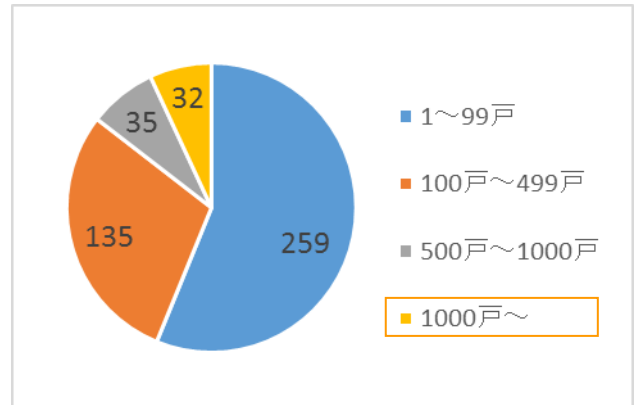


図-3 横浜市団地の戸数の分類

表-3 対象団地選定案

名前	戸数	築年数	トリップ原単位 (65歳以上)	最寄り駅までの所要時間 (徒歩)(分)
奈良北	1556	45	2.74	18
左近山	2103	48	2.72	29
西ひかりが丘	961	46	2.77	26
西菅田	1310	45	2.68	26
南神大寺	1430	42	2.71	14
公田町	1160	52	2.86	24
南永田	1215	42	2.84	20

注：西菅田は第1次・第2次のことを指す



図-4 西菅田団地周辺地図

